

令和6年度 施策評価シート

基本目標		「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120	すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際文化観光都市をつくる
施策	121	すみだの魅力を広く発信し、訪れたいまちをつくる
施策の目標	多様な主体からすみだの魅力が広がり、これまで以上に国内外から多くの人々が「国際文化観光都市すみだ」に繰り返し訪れています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指 標 名	区内観光客リピーター率									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標										30.0%
実績			29.0%							

指 標 名	墨田区を人に勧めたい割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標										65.0%
実績					58.8%					

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
年々、警備や交通整理対策が困難度を増し、それに伴い必要経費が増大している。また、企業協賛金も減少しているため、実施過程やコスト改善の工夫に継続して取り組んでいく必要がある。なお、令和2年度から令和4年度については、事業が中止になったため総事業費が減少している。	R3	400
	R4	400
	R5	47812

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	例年90万人を超える観覧客があり、令和5年度には103万人を記録した。当区のシティプロモーションのために欠かせない事業となっている。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
日本有数の花火大会であり、墨田区の魅力を全国に発信する機会になるため。	
【今後の具体的な方針】	
警備、交通整理対策などの安全確保の方策を講じていき、より魅力的な花火大会の企画を、都・関係区、関係機関と調整、検討していく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳 出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳 出 総 額 (千円)	目的に対する指標	直近の評価内容
					年度目標値	評価結果
					年度実績値	評価対象年度
1	隅田川花火大会	47,812	17,955	65,767	950000	現状維持
					1030000	令和5年度
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

施 策	121	すみだの魅力を広く発信し、訪れたいまちをつくる				部内優先順位
事 業 名	隅田川花火大会事業					1
目 的	伝統の両国川開き花火大会を継承する行事として、広く庶民に親しまれている花火大会を開催し、都区民に潤いと憩いの場を提供する。					主管課・係（担当）
						文化芸術振興課
						文化行事担当
対 象 者	都区民のほか国内外の来訪者					
根 拠 法 令	隅田川花火大会実行委員会会則					
関 連 計 画						
実 施 基 準	区独自基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先	常勤職員4人(当番時)、3人(非当番時)	
事 業 内 容	昭和53年に隅田川花火大会として復活した伝統の花火大会である。例年、東京都、墨田区、台東区、中央区、江東区、荒川区の五区で構成する連絡協議会と、各区町会長、関係事業者、行政職員で構成する実行委員会において、実施日や実施体制等を確認、決定しながら開催している。 なお、町会関係者やボーイスカウト、都区職員による自主警備委員のほか、警視庁や東京消防庁など約10,000人の協力を得て、自主警備体制を整え、安全に万全を期している。					
経 過	開始年度	昭和53年度			終了予定	
	昭和53年から開催し、以来、令和元年度まで42回実施している。令和2年度から令和4年度については、国が定める感染症の安全対策を取ることが困難であったため中止とした。					
議 会 質 問 の 状 況	令和6年2月定例会 隅田川花火大会において協賛席の在り方を見直し、ふるさと納税向けの専用観覧席も設け返礼品として打ち出してみたいかが。 (答弁)：活用できる場所を検討するとともに、実施するための条件を関係機関と協議していく。					
そ の 他 特 記 事 項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 2023年の開催予定日7月29日(土) 4月11日(金)に開催された実行委員会で開催を決定。 2024年7月27日(土)に開催予定 4月7日(火)に開催された実行委員会で開催を決定。					

予算・決算額推移（単位：千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算現額（事業費）		31,885	1,081	400	400	53,453	64,246
A.決算額（令和6年度は見込み）		31,874	1,081	400	400	47,812	64,246
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		31,874	1,081	400	400	53,453	64,246
執行率（％）		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	89.4%	100.0%
B.人コスト		26,214	21,088	21,066	18,840	17,955	
総事業決算額（A+B）		58,088	22,169	21,466	19,240	65,767	
予算書P（令和6年度）	P121 2-2	執行実績報告書P（令和5年度）				55	

予算・決算の内訳（単位：千円）								
令和４年度（決算）			令和５年度（決算）			令和６年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
負担金補助及び交付金	補助金	400	負担金補助及び交付金	補助金	46,455	負担金補助及び交付金	補助金	62,395
報償費	ボランティア記念品代	0	報償費	ボランティア記念品代	0	報償費	ボランティア記念品代	15
管内旅費	当日従事者分旅費	0	管内旅費	従事者分旅費	27	旅費	従事者分旅費	48
委託料	会場整理委託	0	委託料	会場整理委託	1,330	委託料	会場整理委託	1,788

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	年1回の開催				単 位	回数
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		1	R7	目標	1	1	1	1
				実績	1	1	1	1
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1	1	1	1	1	1
		実績	-	-	-	1		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	伝統の両国川開き花火大会を継承する行事として、広く庶民に親しまれている花火大会を毎年継続して開催することが必要であるため。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	来場者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		950000	R7	目標	950,000	950,000	950,000	950,000
				実績	957,000	748,000	874,000	959,000
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	950,000	950,000	950,000	950000	950000	950000
		実績	-	-	-	1,030,000		
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	伝統ある花火大会であり、東京の夏の風物詩として都内はもとより全国的に有名な大会として、今後も大勢の観客の来場が、地域経済活性化及び当区のシティプロモーションの指標となるため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	日本有数の花火大会として成長し、都区民をはじめとする多くの方々に愛される事業として定着している。また、令和5年には100万人を超える観覧客が訪れたことから、当区のシティプロモーションのためには欠かせない事業であり今後も開催に向けて準備を行う。

課題・問題点
年々、警備や交通整理対策が困難度を増し、それに伴い必要経費が増大している。また、企業協賛金も減少しているため、実施過程やコスト改善の工夫に継続して取り組んでいく必要がある。 この花火大会は毎年100万人近い観客を集める全国的にも有名な大規模イベントであることから、経済波及効果の面で、中止となった場合の影響が非常に大きいので、今後開催に向け国が求める安全基準を順守して、実施に向けた準備を進めていく。 また3年連続の中止により、花火大会を経験していない職員が増えているので、マニュアル等を整備し共有することで、大会に備えていく。

補助金 名 称	隅田川花火大会実行委員会補助金			主管課・係（担当）	
根 拠 法 令	隅田川花火大会実行委員会会則			文化芸術振興課文化行事担当	
補 助 概 要	隅田川花火大会実行委員会の運営経費について補助			03-5608-6180	
目 的	伝統の両国川開き花火大会を継承する行事として、広く庶民に親しまれている花火大会を開催し、都区民に潤いと憩いの場を提供する。				
対 象	隅田川花火大会実行委員会				
基 準	区独自基準				
補 助 条 件	隅田川花火大会実行委員会会則 第9条（経費） 実行委員会の経費は、分担金、寄付金及びその他の収入をもって充当する。				
経 過	開始年度	昭和53年度	終了予定		
	昭和53年から開催し、以来、令和元年度まで42回実施している。令和2年度から令和4年度については、国が定める感染症の安全対策を取ることが困難であったため中止とした。 令和5年度から再開し、令和6年度大会については7月27日（土）に開催予定。				
議 会 質 問 の 状 況	令和6年2月定例会 隅田川花火大会において協賛席の在り方を見直し、ふるさと納税向けの専用観覧席も設け返礼品として打ち出してみたいかが。 （答弁）：活用できる場所を検討するとともに、実施するための条件を関係機関と協議していく。				
そ の 他 特 記 事 項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 2023年の開催予定日7月29日（土） 4月11日（金）に開催された実行委員会で開催を決定。 2024年7月27日（土）に開催予定 4月7日（火）に開催された実行委員会で開催を決定。				

予算・決算額推移（千円）		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
予算額（事業費）		31,885	1,081	400	400	53,453	64,246
決算額（令和6年度は見込み）		31,874	1,081	400	400	47,812	64,246
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		31,874	1,081	400	400	47,812	64,246
執行率（％）		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	89.4%	100.0%

補助金の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	年1回の開催				単位	回数
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1	R7	目標	1	1	1	1
				実績	1	1	1	1
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	1	1	1	1	1	1
		実績	-	-	-	1		
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		伝統の両国川開き花火大会を継承する行事として、広く庶民に親しまれている花火大会を毎年継続して開催することが必要であるため。						
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	来場者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		950,000	R7	目標	950,000	950,000	950,000	950,000
				実績	957,000	748,000	874,000	959,000
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	950,000	950,000	950,000	950,000	950,000	950,000
		実績	-	-	-	1,030,000		
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		伝統ある花火大会であり、東京の夏の風物詩として都内はもとより全国的に有名な大会として、今後も大勢の観客の来場が、地域経済活性化及び当区のシティプロモーションの指標となるため。						

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	日本有数の花火大会として成長し、都区民をはじめとする多くの方々に愛される事業として定着している。また、令和5年には100万人を超える観覧客が訪れたことから、当区のシティプロモーションのためには欠かせない事業であり今後も開催に向けて準備を行う。

課題・問題点
年々、警備や交通整理対策が困難度を増し、それに伴い必要経費が増大している。また、企業協賛金も減少しているため、実施過程やコスト改善の工夫に継続して取り組んでいく必要がある。 この花火大会は毎年100万人近い観客を集める全国的にも有名な大規模イベントであることから、経済波及効果の面で、中止となった場合の影響が非常に大きいので、今後開催に向け国が求める安全基準を順守して、実施に向けた準備を進めていく。また3年連続の中止により、花火大会を経験していない職員が増えているので、マニュアル等を整備し共有することで、大会に備えていく。